学校番号	３０２０B

令和２年度　　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史 B	単位数	3	年次	3
使用教科書	詳説日本史 B　（山川出版）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）　ウィニングコンパス日本史の整理と演習（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史を通史で学習していきます。史料や図録も参考にしながら、２年生の学習を踏まえ、近世以降の日本史を学習します。授業プリント等を活用し、復習しながら学習を進めてください。特に外国との関係が日本史を大きく動かしたことを理解してください。小テストも適宜おこないます。

２　学習の到達目標

●日本の歴史上の出来事や制度等を、世界の歴史や史料などと関連付けながら考察することができる。
●古代から現代に至るまでの日本の歴史を学ぶことで、日本独自の文化や伝統についての認識を深め、国際社会の一員の日本国民としての自覚を持つ。
●大学入試問題等が解答できるようにする

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：資料活用の技能	d：知識・理解
観点の趣旨	日本の歴史上の諸問題への関心や意識を高め、主体的に問題を設定し、解決しようとする。	歴史に関連する諸問題等を、身に付けた知識などを用いて読み解き、考察することができる。	歴史上の諸問題等に関連する史料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり、自分の力でまとめることができる。	日本史に関する基本的な用語が定着し、その知識を身につけている。また、日本と世界の歴史の結びつきを関連付けて理解しているか。
評価方法	ワークシート 学習状況の観察	定期考査	定期考査 レポート	定期考査 ノート・プリント
	[主題学習] グループワーク等の取組	[主題学習] レポート	[主題学習] ワークシート	[主題学習] 内容のまとめ
	※　「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	近世	・幕藩体制の確立 ・幕藩体制の展開 ・幕藩体制の動揺	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ 	○ ○ ○	a:幕藩体制下の国内の制度や対外的な関係などを総合的にとらえようとし、関心を高められている。 b:幕藩体制がいかに確立され、どのように発展したのかについて多角的に考え表現することができる。 c: 設定された時代についての史料などを読み取り、有用な情報を選択して図表などにまとめることができる。 d:幕藩体制下の産業や文化などを通して、人々の生活についての知識を身に着け理解することができる。	ワークシート 学習状況の観察 定期考査 夏季課題
前期 後期	近代	・近代国家の成立 ・二つの世界大戦とアジア	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a:近代的な国づくりのためにどのような政策がとられていたのかについて、多角的にとらえ関心を高められている。 b:日本がなぜ戦争に関わったのかということやアジア諸国に対してどのように関わったのかについて考察し、適切に表現することができる。 c:20 世紀の 2 つの大戦で日本がアジア諸国といかに関わったのかについて地図や資料などを活用しながらとらえることができる。 d:開国から終戦までの歴史的な経緯や重要語句について、平和の意義などと関連付けて理解しているか。	定期考査 グループワーク等の取組 学習状況の観察

	現代	・占領下の日本 ・高度成長の時代 ・激動する世界と日本	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:戦後、日本がどのようにして主権を確立したのかや、周辺国との関係をどのように築いてきたのかについて関心を持つ。 b:占領下から現代にかけての社会や国民生活の特色を、国際環境と結び付けて考え、適切にまとめることができる。 c:設定された時代について、写真や史料などから有用な情報を選択し、読み取ったり、まとめることができる。 d:戦後の日本の経済的な発展や国際的な立ち位置などを、国際環境と結びつけながら知識として身に着け理解している。	定期考査 内容のまとめ 学習状況の観察

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。